

雨の中の「総会」でした

5月29日(日)、中郷町づくり総会が開催されました。この日は朝から雨となり午後には台風2号の接近で大雨警報がでるといふ最悪のお天気。そのため来賓として出席していたく予定の副市長さんをはじめ沢山の市関係の方々全てが「警報対策本部設置」のため出席できなくなり、挨拶の中で市政の動きが聞けるよい機会を失ってしまったこととなってしまい本当に残念でした。

当協議会も警報発令の事を知り開否について少し迷ったのですが、中止の連絡もできない程の開会時間直前のことであり、また忙しいところをなんとか都合をつけて出席いただいている状況でもあったため、予定を変更するもっと大きな問題を生じさせることになる懸念してそのまま開催にふみ切りました。幸い風雨もそんなに強くなり、更には総会終了の午後3時半頃にはやや小降りになり「よかった」と胸をなで下ろしたところ。しかし駐車場は水浸し、そして長靴を履いてこなければ歩けないような状況の中で、たくさんのご出席をいただきましたが、そのことに対し責任の重さを痛感すると共にご出席の皆様へ厚く御礼申し上げます。

さてこの年度初めの総会、これは「町づくり」を進めるうえで大変重要な会議です。何故かといえどこの会議で今年のおおまかな内容の全てのことが決まります。

主な議題は

- 1 平成22年度の事業報告と決算報告
- 2 平成23年度の役員選出
- 3 平成23年度の事業予定と予算案

このうち事業報告では特に「アンケート」と「宅老所づくり」そして「敬老会」のことについてその経過の報告がありました。

「アンケート調査」は地区住民はのニーズを調べるうえで最良の方法です。今年には新事業を策定するため、また敬老会の内容を検討する資料とするためその意見集約の方法として2度実施しました。次に町づくりの一環として開設を目指した「宅老所」。これは地域の高齢者の仲間作りの場として本当に喜ばれています。誰に気兼ねすることなくゆつくり落ち着いて「井戸端会議?」ができる」として、この地域の殆どの自治会で開設が進みました。これは本当によかったと思います。町づくり協議会への「交付金」は限りがあり、そのうふんだんに使うことは出来ません。しかしこの宅老所については「赤十字・赤い羽根」からの助成がありその資金の活用で運営ができるのです。こんなにも有り難いことはありません。



「仲間作りができれば自然にお互いの助け合いもできるようになる」と、社協では「嬭野地区の「お助けマップ」に中郷地区の宅老所の設置の様子が紹介されています。最近だんだん自分勝手な幅をきかす世の中になり「隣は何をする人ぞ」と知らんぷりを



をしていく世の中。この宅老所づくりがどんどん進み、みんなが仲良くなれるよう方向転換していくよう大いに期待されています。しかしまだまだ不十分ながらも益々力を入れていかなければなりません。みなさんと共に頑張りたいと思います

敬老会は今年も開催します

そして昨年度18年ぶりに中郷地区で復活した「敬老会」。これがご出席いただいた皆さんに大好評でした。でも最近では地域主催の敬老会がだんだん姿を消し振興局単位の主催となっていたのです。しかしそれでは「細かいところまで配慮することが難しい」、また「単なる高齢者の慰安会のようなものになってしまう」といった問題提起があり、今回「地域で地域の人が心のこもったもてなしをする」とそんな敬老会の復活を目指しました。そのため、地域の若い者が地域の高齢者を接待する形式をとり、「本来の姿に戻そう」と実行委員会を作って地域事業として開催したのです。

その結果参加していただいた方々より「また来年もしてほしい」という要望が数多く出されてきました。そのため今年も事業計画の中にもそのことが反映され、本年度事業計画の中にその項目が盛り込まれています。だから今年も「敬老会」が12月に開催される予定です。ご期待いただきます。

新役員さんが決まりました

そして引き続き平成23年度の役員さんが選出されました。そして新しく会長として選出されたのは中郷地区の自治会長代表 大森嘉美さん。大森さんは昨年度より自治会長として「町づくり」に関わられ、去年は「暮らしを守る委員会」の事業担当役員として「敬老会」の開催にも力を尽くされてきた実績があるのです。その他各自治会から選出された自治会長さんすべてが役員として就任されました。しかしこれまで伝統的に独自に自治会運営をされてきた日川地区がこの年度削減等の問題もあり本年度より宮野自治会と合併することとなり、協議会役員の定数も1名減となった時の流れを感じます。それではここで新しく就任された役員さんをご紹介します。

- 会長 大森 嘉美 (中郷自治会長代表・滝之川)
- 副会長 小西 隆司 (中郷自治会長副代表・宮野)
- 書記 乾 博 (議事録担当・森本)
- 会計 野口 正彦 (暮らしの事業担当兼務 釜生田)
- 事業担当山下 博 (生きがい学習担当・合ヶ野)
- 同 粕谷 敦美 (地域活性化担当・矢下)
- 同 小森 晴行 (特別担当・事務局兼務・公民館)
- 同 山際 宏之 (滝之川)
- 会計監査 長谷川 広史 (釜生田)

新事業に「全戸避難訓練」

今年には本当に怖いことが起こりました。3月1日に勃発した「東日本大震災」。高さが15mを超す津波がきてすべての家を飲み込み、更にはコンクリート製の建造物まで押し流してゆく様は本当に「これが現実か？」と目を疑う程でした。

平成23年度 事業計画案	
1	暮らしを守る委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 敬老会 (実行委員会を作って運営) 《12月》 ○ 全戸避難訓練 (実行委員会を作って運営) 《1月》 ○ その他各活動団体の事業 《年間》
2	生きがい学習委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 育成会活動 : 花火大会 親子体験教室等 《年間》 ○ 体育専門委員会活動 : 地区民運動会 《10月》 ○ 公民館活動 : 公民館講座の促進等 《年間》 ○ 盆踊り (実行委員会を作って運営) 《8月》 ○ 文化祭 (実行委員会を作って運営) 《11月》 ○ その他各活動団体の事業 《年間》
3	地域活性化委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 柚子の里づくり 《年間》 ○ その他各活動団体の事業 《年間》
4	特別委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 実行委員会を作った地域事業の実施 《年間》 ○ 活動拠点の整備 《年間》 ○ その他各活動団体の事業 《年間》
5	総務・事務局 <ul style="list-style-type: none"> ○ 中郷町づくり協議会だよりの発行 《年間》 ○ 各事業の運営調整・渉外 《年間》 ○ アンケートの実施 《必要時》

しかしそれから3ヶ月やや落ち着いてきたような気もします。しかし堤防の上を軽々と大きな船が乗り越えて来る映像を私達は忘れることができません。そのためこれを機会に自分たちの緊急避難態勢を見直すという大きな課題となりました。東日本大地震は幸い我々には影響が少なかったものの、これから近いうちに必ず起こると言われている「東海地震」や「東南海地震」。この震災がこの地域を襲ったとき大きな災害を及ぼすことは必至です。そのため政府はその災害を予想して静岡県内の「浜岡原発」の稼働を止める処置をとりました。それは今回の津波を想定しての処置ですが、これが無駄になったとすれば我々は「何も起こらなかった」ことに感謝しなければなりません。

無駄だと思っても充分災害に対応できる準備をしておかなければなりません。そんなわけで今震災についての意識が高い時にその準備を進めるのは好機であるとして行政も一丸となつてこの対策に取り組んでいます。そのためこの町づくり協議会もこれに呼応した形で「全戸避難訓練」を開催しようというのです。幸いこの地域には津波の心配はありません。しかし大雨のため崖崩れが起こったり大洪水のため堤防が決壊したり、それを取り越えて民家に流れ込むことは予想に難くありません。そのため

- ① 崖崩れ等で孤立状態になつてしまふ
- ② 住まいが流されたり浸水で被害が及ぶ
- ③ 緊急避難が必要になる

以上のことは充分予想しておかなければならないのです。そんな時のため

- ① 私たちはどのような行動をとればよいか
- ② 避難情報はどうのようにして得ればよいか
- ③ 避難所としてはどこが最も適切か
- ④ 連絡はどうすればよいか 等々、

自治会単位あるいはブロック単位でみんなで真剣に考え合ひましょう。

自治会単位の役員さんや消防団の方だけに「お任せ」ではいけません。「自分達の身は自分達で守る」その気構えが必要なのです。

そして 来年1月をめざして

- 1 避難に関する全戸アンケートの実施
- 2 住居ブロックでの話し合い
- 3 自治会単位の話し合いや炊き出し体験
- 4 中郷地区全体での話し合い

以上のことを進めたいと思います。そして安心して暮らせる町づくりを、みんなの参加と協力で確立していきたいと思ひます。